

ときめき インタビュー



聖 有希
しずく あき / Aki Shizuku

…プロフィール…

昭和61年10月31日、神奈川県川崎市生まれ。越谷市在住。上智短期大学および慶應義塾大学卒業。大学時代にレスリングをはじめ、4年生のときに全日本学生レスリング選手権大会67キロ級で銀メダルを獲得後、女子プロレスラーとして本格デビュー。現在はプロレス団体「マーベラス」所属。平成24年に僧侶の資格を取得し、親が住職を務める寺で僧侶として活動するほか、慈善事業団体「きらきら太陽プロジェクト」を主宰し、恵まれない子どもたちへの支援を行っている。



僧侶姿の聖さん。プロレスの衣装を縫ってくれる檀家さんもいるそう

ある時は縦横無尽にリングを駆け巡り、技を決める女子プロレスラー。ある時は仏様の前で念仏を唱える僧侶。そしてさらには慈善事業団体の主宰者という顔も持つ「尼僧プロレスラー」聖有希さん。その多彩な活動に込められた思いを伺いました。

★女子プロレスとの出会いは偶然観たテレビ中継

聖さんが女子プロレスに出会ったのは中学生の時。たまたまつけたテレビで放送していた試合中継を見たことからでした。

「コスチュームの華やかさ、お客さんを湧かせる技や駆け引き。見ているうちにどんどん女子プロレスの楽しさにのめり込んでいきました。中学・高校時代の私は引っこ込み思案な性格で、学校の友人関係にも悩んでいました。だからこそ観客を楽しませる華やかな世界を見ることが、落ち込みがちな気持ちに晴れたし、すごく勇気を

もらいました。」

テレビだけでなく試合会場にも足を運ぶほどのプロレスファンになっていった聖さんは、次第に「プロレスラーになりたい！」という夢を持つようになります。

「高校卒業が近づいたある日、母にその夢を伝えたら、母は「いきなりプロではなく、アマチュアレスリングを極めてからプロに行きなさい」と言っただけです。後で知ったのですが、実は母はプロレスをやらせたくなくて、レスリングというキツイスポーツをやったら諦めるだろうと思ってそう言ったらしいんです。そんなお母さんの願いとは裏腹に、聖さん

は厳しい練習を乗り越えて、大学最後の年に全日本学生レスリング選手権大会67キロ級で銀メダルを獲得するという結果を残し、女子プロレスラーへの道を歩み出します。

★試合のオフアワーがなくレスラー生命危機を経験

聖さんの最初の女子プロレスデビューは大学在学中の20歳のとき。しかし、所属したプロレス団体の上下関係の厳しさに耐えきれず、1年も経たないうちに退団。その後には学生レスリングと学生プロレスに情熱を燃やし、大学卒業を機に団体に所属しないフリーのプロレスラーとして再デビューされたそうです。

「フリーのプロレスラーは、いろいろな団体から声を掛けてもらって試合に参加するスタイル。で

すから1カ月に何試合もする忙しいときもあれば、1試合もないというときもある。一時期、試合のオフアワーが全く途絶えてしまった時は、レスラー生命の危機を感じましたね。」

★突然やってきた「寺を継ぐ運命」

「長与さんのプロレスに対する想いの強さは本当にスゴイ。すばらしい先輩がいる団体に入れたのは光栄です。」

そしてもうひとつの聖さんの顔は「僧侶」。親の実家であるお寺は元々親戚が継いでいましたが、その方に子どもがなく、聖さんの親御さんが住職を引き継ぐことになった。それによって「寺の後継者」となったのは、聖さんが18歳のとき。

「突然だったし、仏教のことも知らないし、すごく反発しました。でも好きでもないお坊さんと結婚

して継がされるくらいなら自分が僧侶になるほうが良いと思って、僧侶の資格を取ったんです」という聖さんは、現在レスラーとしての活動を優先しつつも、檀家さんを集めて月1回行う「念仏会」や法要など、僧侶の務めにも力を注いでいます。

★二足のわらじが生んだチャリティー活動

聖さんは平成25年から「きらきら太陽プロジェクト」という恵まれない子どもたちへの支援を行う慈善事業団体を主宰しています。

「このプロジェクトを作るきっかけになったのは、22年にお寺で開催した『縁日プロレス』。近年若い人がお寺離れしていることもあって、お寺で毎年開く縁日が寂しいものになっていたので、人集めとして境内でプロレスをやるうと。その縁日に募金箱を設置してうちのお寺と関わりのある寺の乳児院に寄付しました。それ以来、



迫力のある試合が繰り広げられる



尼僧プロレスラー 聖 有希 さん

聖有希というリングネームには「誰かを救う一滴の聖でありたい」「未来に希望が有るように」の意味が込められている

縁日だけでなく、年に4回ほどチャリティープロレスの興行を行っています。」

★他者を受け入れること

そしてさらにプロジェクトの幅を広げるべく、聖さんがいま取り組んでいるのがカウンセラー資格の取得。「宗教には人の悩みを救う役割もあるはず。僧侶が悩み相談に答えるインターネットのサイトがあるのですが、そこでの僧侶の解答は仏教の小難しい解釈で「教え諭す」のが多くて、一般人にはすごく分かりにくい。そういうスタンスが仏教の敷居を高くしている原因でもあり、お寺離れを助長していると思います。私はもつと悩んでいる人に寄り添って、悩みを解消するための「気付き」を一緒に導いていきたい。そのため

静と動という対極にも思える僧侶とプロレスラー。そこには共通点があると聖さんは言います。

「僧侶は人の悩みや苦しみを受け止めて導くのが役割。プロレスは相手の技を受け止める中で勝機を見出すスポーツ。他者を受け入れる」という姿勢は同じなので、私の中では2つの仕事に違いは感じません。」

今年8月にも越谷市内で「縁日プロレス」が開催される予定。縁日には毎回500人くらいの方が訪れるそうです。

「縁日だけでなくプロレスの興行をする会場はどこでも、子どもが泣いたり騒いだりしても全然かまわない場所なので、プロレスを

プロレスと仏教をこれからももっと究めていきたい!

8月開催の縁日プロレスの詳細は、「きらきら太陽プロジェクト」のホームページ (<http://kira-pro.com/>) で確認できます。



「プロレスより先に会っていたらタカラジェンヌだったかも」というほどの宝塚歌劇ファン